

原木・製品生産のアンケート結果等 (関東地区)

令和2年10月
林野庁

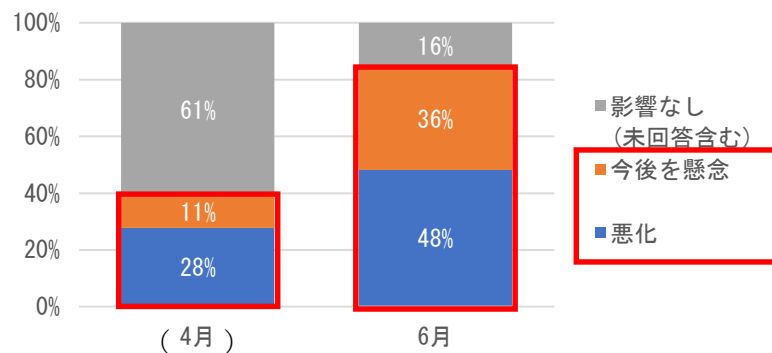
1 原木生産（全国）

素材生産事業者を対象に6月の状況について調査（回答数256）を実施したところ（4月の回答数は228）

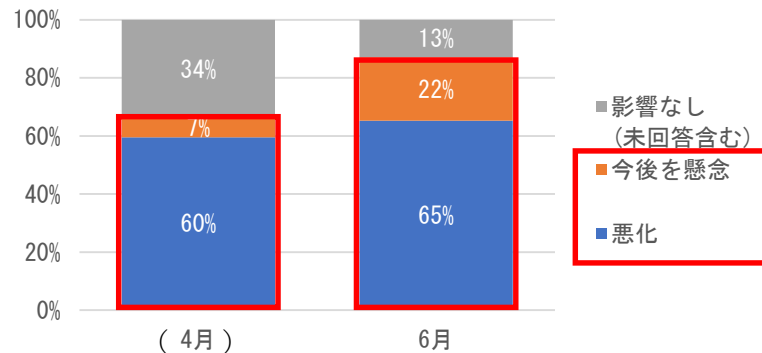
- ・ **出荷数量の動向**について、**悪化または今後を懸念していると回答した事業者が約8割**であり、4月から4割増加。
- ・ **販売価格の動向**について、**悪化または今後を懸念していると回答した事業者が約9割**であり、4月から2割増加。
- ・ 8月の時点では需要の回復が見込めず、工場の減産、原木価格の下落が続くことを懸念。

○出荷量・販売価格状況

■ 出荷数量の動向（前年同月比）



■ 販売価格の動向（前年同月比）



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 製材工場等における原木の受入制限や原木価格の下落を受け、販売量は減少。
- ・ 一方、7月豪雨の影響により、九州地方では出材量が減少し原木価格が反発。
- ・ 燃料用材の需要は堅調。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。
- ・ 需要の回復が見込めず、工場の減産、原木価格の下落が続くおそれ。
- ・ 豪雨の影響による原木価格の反発は一時的とみられる。

1 原木生産（全国）（つづき）

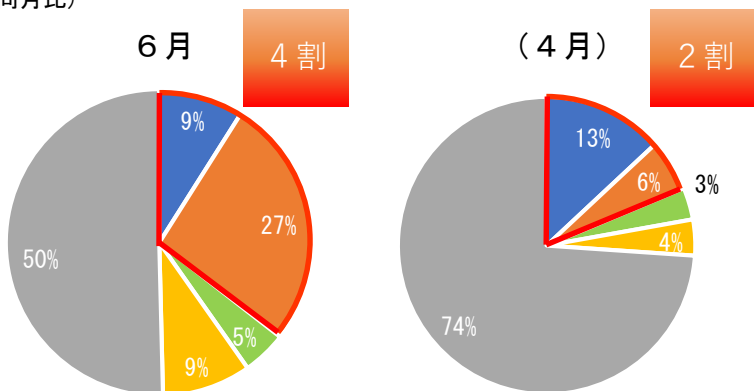
- ・生産状況について、減産していると回答した事業者が約4割であり（4月比2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・雇用確保のため素材生産の代替として、造林・保育へ移行（51%）、皆伐から間伐へ移行（38%）している。
- ・また7月以降、約3割の事業者が減産を実施予定と回答。

○生産状況、雇用

■生産状況（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上

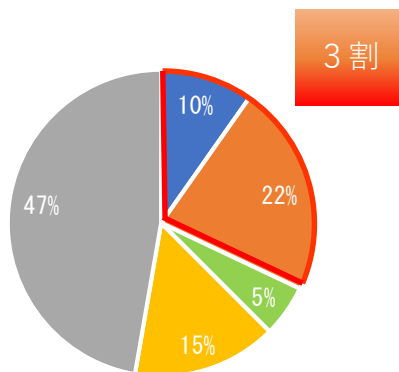
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■7月以降の生産状況（予定）（前年同月比）

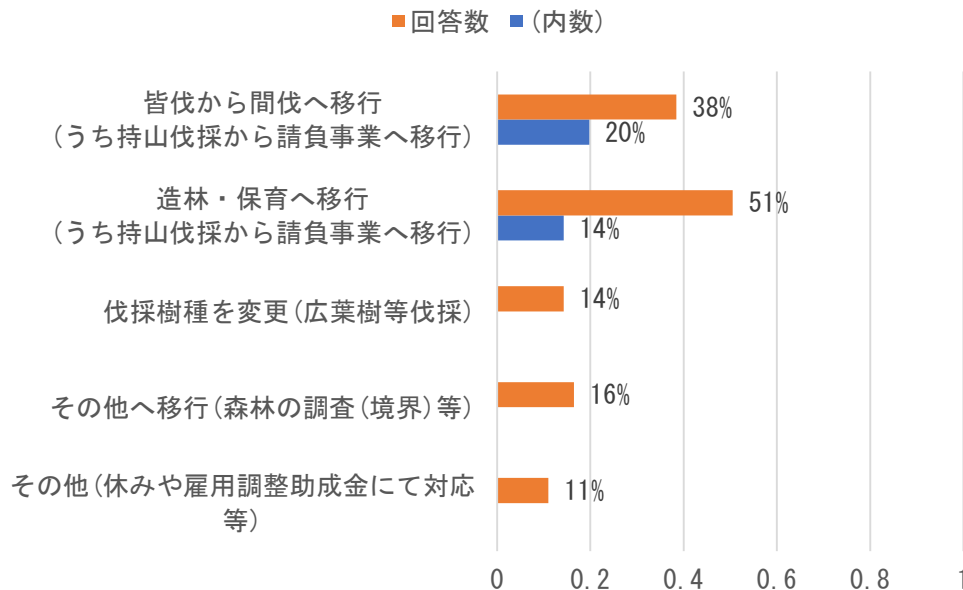
- 減産 20%未満
- 減産 20%以上

- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■作業の移行状況

（減産を実施している事業者の回答）（複数回答有）



■8月時点の情報

【現状】

- ・販売状況の悪化や7月の長雨（豪雨）の影響に伴い、生産量は減少。
- ・生産に伴わない作業へ移行し雇用を確保している。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・経営状況の悪化が懸念される。

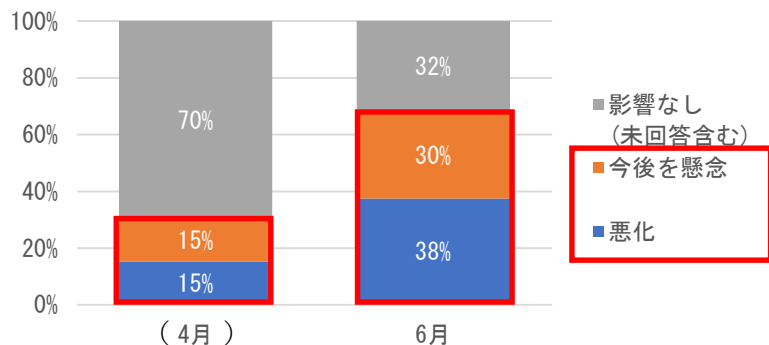
1 原木生産（関東地区）

素材生産事業者を対象に6月の状況について調査（回答数56）を実施したところ（4月の回答数は46）、

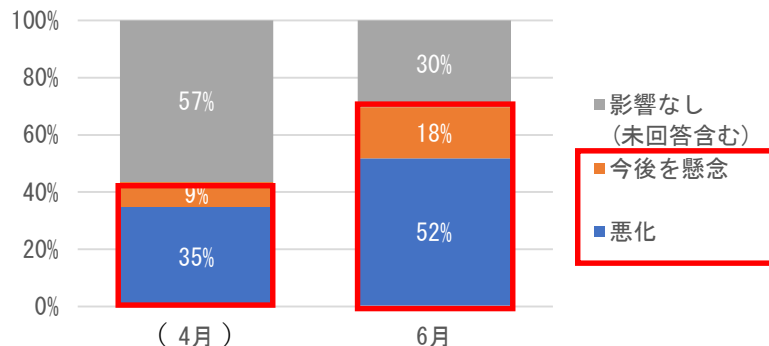
- ・ **出荷数量の動向**について、**悪化又は今後を懸念と回答した事業者が約7割**であり、4月から4割増加。
- ・ **販売価格の動向**について、**悪化又は今後を懸念と回答した事業者が約7割**であり、4月から2割増加。
- ・ 製材工場等の受入制限により原木が滞留し、**原木価格が下落**している。今後の先行きは不透明。

○原木の出荷・販売状況、売上げの動向

■ 出荷数量の動向（前年同月比）



■ 販売価格の動向（前年同月比）



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 製材工場等の受入制限により、原木が滞留。原木価格の下落も見られる。
- ・ 市場に材があふれたため市場への出荷制限もあったが、販売先を振り替えるなどして持ちこたえた状況。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。

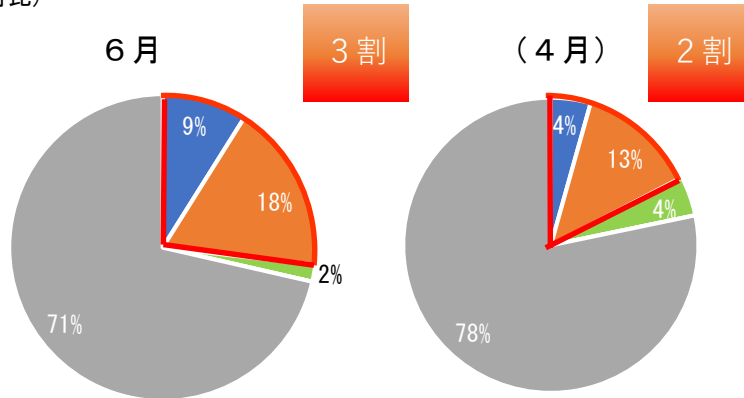
1 原木生産（関東地区）（つづき）

- ・ 原木生産について、減産していると回答した事業者が約3割であり（4月比1割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・ 雇用確保のため素材生産の代替として、伐採樹種を変更（53%）、皆伐から間伐へ移行（27%）している。
- ・ また7月以降、約3割の事業者が減産を実施予定と回答。
- ・ 販売状況の悪化等に伴い生産量は減少した一方で、今後原木が不足するという見通しもある。

○原木の生産状況、作業の移行状況

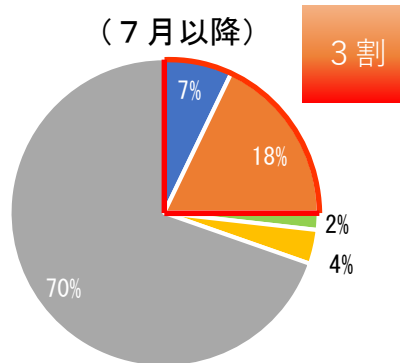
■生産状況（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）

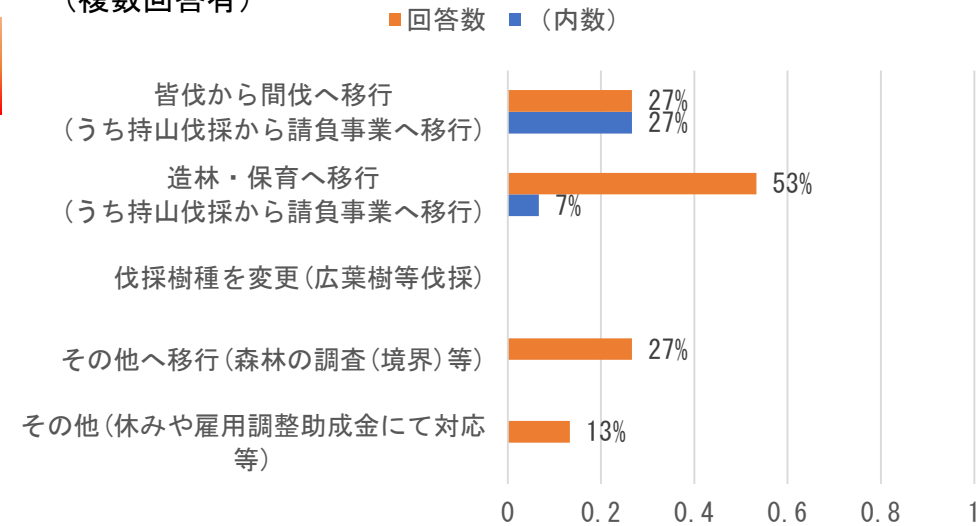


■7月以降の生産状況（予定）（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■作業の移行状況（減産を実施している事業者の回答）（複数回答有）



■8月時点の情報

【現状】

- ・ 販売状況の悪化や7月の長雨の影響に伴い、生産量は減少。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。
- ・ 生産者が消極的となっている。9月以降原木が不足するおそれもある。

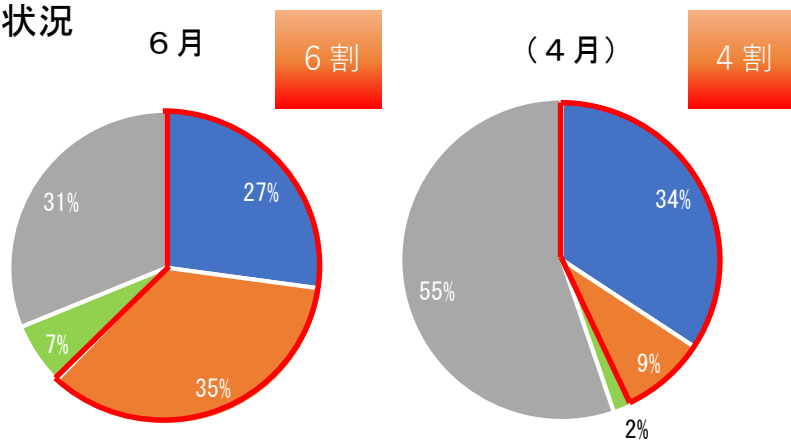
2 製材（全国）

全国の大手の製材工場を対象に6月の状況について調査（回答数199）を実施（4月の回答数は219）。

- ・ 約6割の工場が製品の減産を実施しており（4月比2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・ このため、約3割の工場が原木の入荷制限を継続（4月比1割増）。
- ・ 需要の先行き不透明な状況により、入荷制限は継続される見込み。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報

【現状】

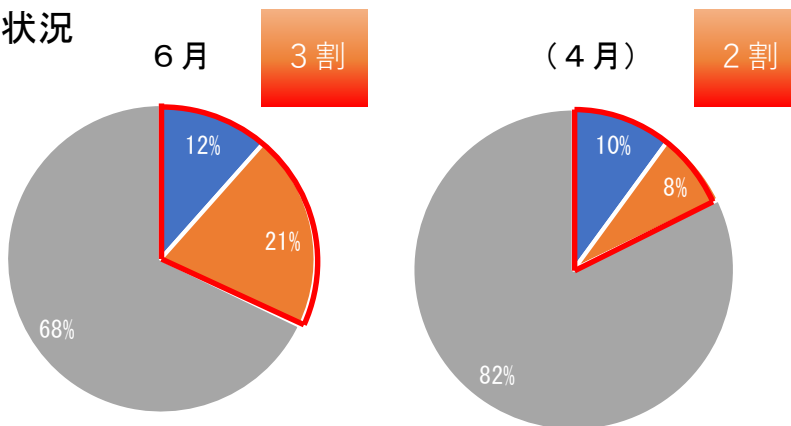
- ・ 製品生産・販売ともに全体的に減少傾向
- ・ 製品価格も下落傾向。
- ・ 特に梱包材・パレットやイベント等の仮設資材の需要が落ち込む。
- ・ ホームセンター向け製品の販売は増加。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。
- ・ 秋以降、多少需要が回復しても限定的で、現状の傾向が続くとみられる。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 減産に伴い一部で入荷制限を実施。
- ・ 供給側の生産調整や天候の影響による出材量の減少により、原木調達が困難となる地域もみられる。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。
- ・ 販売状況によっては入荷制限を継続。

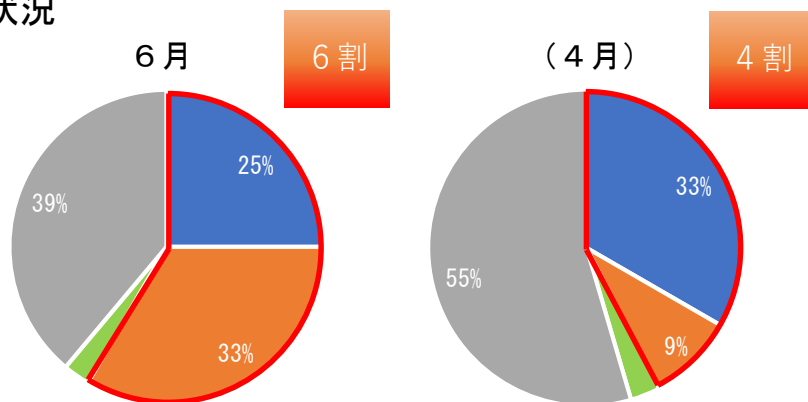
2 製材（関東地区）

関東地区の大手の製材工場を対象に6月の状況について調査（回答数36）を実施（4月の回答数は33）。

- ・約6割の工場が減産していると回答しており（4月比2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・このため、約4割の工場が原木の入荷制限を継続。
- ・製品価格の下落、販売の減少から、前年比2～3割程度の減産体制。需要の先行き不透明な状況だが、9月～10月が底という見方もある。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上



■ 8月時点の情報

【現状】

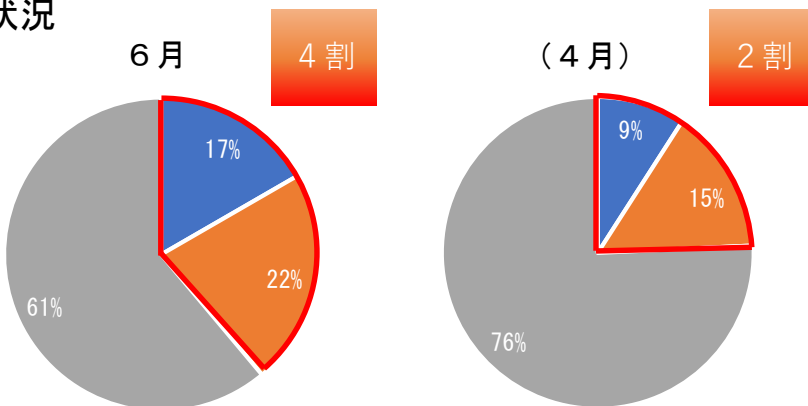
- ・製品生産は減産体制（前年比2～3割減）。
- ・製品価格が下落し、販売も減少。ただし、ホームセンター向け材の販売は増加。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・9～10月が底という見方もある。
- ・受注状況をみて販売しやすい製品の生産に変更していく。
- ・原木入荷が厳しければ減産で対応。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・原木の入荷制限は継続。前年比3割減。
- ・製材用原木の減少により原木調達が困難となった。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・原木価格の高騰も予想される。

3 合板（全国及び関東地区）

合板工場を対象に6月の状況について調査（回答数31）を実施（4月の回答数は27）。

全国の状況として、

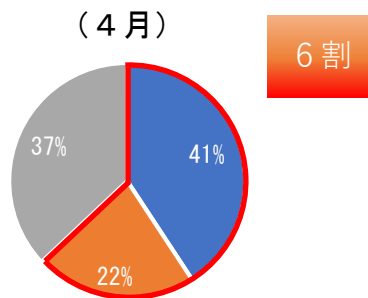
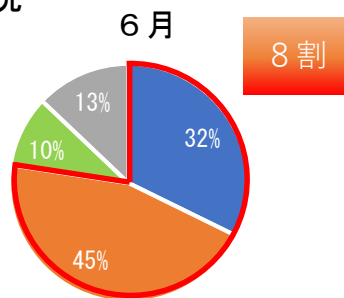
- ・合板の生産状況について、減産していると回答した事業者が約8割であり（4月比約2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・このため、約5割の工場が原木の入荷制限を継続（4月比1割増）。

関東地区においては、15～25%程度の減産。販売価格の下落は今後も続く見込み。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上

- 増産
- 増減なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・製品は前年比1～3割減産。
- ・販売も前年比2割程度減少しており、価格も下落傾向。

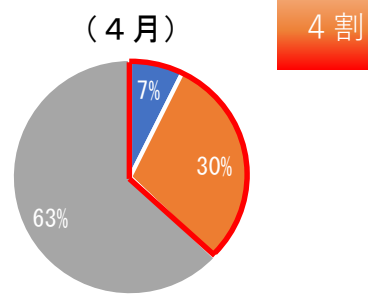
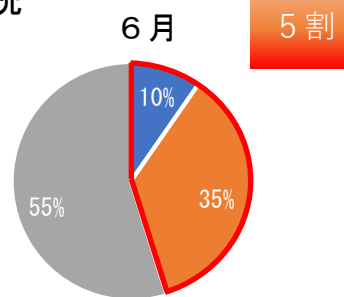
【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・秋まで需要減退が続く見通しであり、当面は減産を継続。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上

- 制限なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・原木の受入制限を実施（前年比1～3割減）。
- ・一方、安定的に入荷を続けている工場もある。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・減産の継続に伴い、原木の受入制限を継続する見込み。

■ 8月時点の情報【関東地区】

【現状】

- ・前年比15～25%の減産。販売数量は前年比2割程度の減少。販売価格も下落。
- ・原木の入荷量も前年比2割程度の減少。

【見通し】

- ・先行きは不透明のため当面は減産を維持。前年比2～3割の減産が続く見通し。
- ・販売価格の下落継続の見通し。減産体制に伴い入荷制限を継続。

4 集成材（全国及び関東地区）

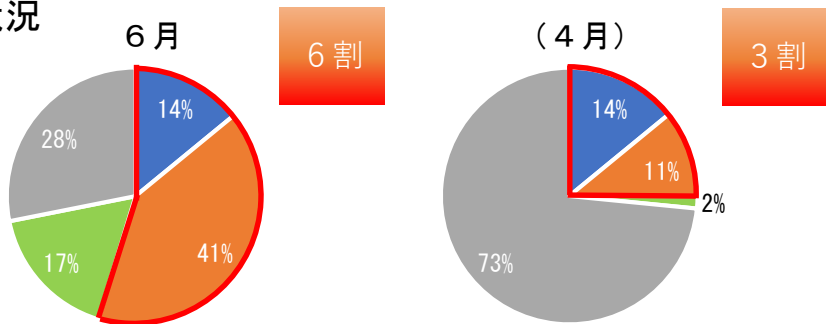
集成材工場を対象に6月の状況について調査（回答数64）を実施（4月の回答数は64）。
 全国の状況としては、

- ・ 集成材の生産状況について、**減産**していると回答した事業者が**約6割あり**（4月比約3割増）、**減産割合も「20%以上」が増加**している。一方、**約2割の事業者が増産**していると回答。
- ・ このため**約1割の工場が原木の入荷制限を継続**。

関東地区においては、非住宅物件向け構造用集成材の需要拡大等により**高い稼働率の工場もある**。

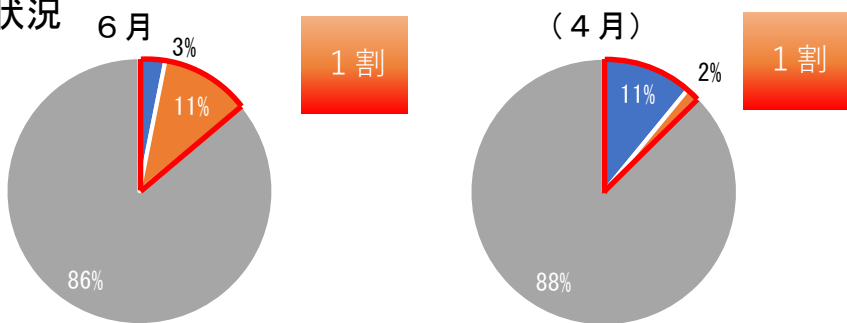
○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・ 製品は前年比2～3割減産。
- ・ 安価な輸入製品との競合により、製品価格が下落傾向。
- ・ 一方、非住宅物件向け（公共・民間）の構造用集成材の需要が増加しており、高い稼働率を維持している工場もある。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。受注増は期待できず、当用買いが続く見込み。
- ・ 一方、非住宅物件向けの需要増により、前年比3割増の受注を見込む工場もある。

■ 8月時点の情報【関東地区】

【現状】

- ・ 受注低迷のため入荷制限を実施。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。当用買いが続く見込み。

■ 8月時点の情報【関東地区】

【現状】

- ・ 販売減少に伴い在庫調整中。非住宅物件向けの構造用集成材の需要拡大により工場の稼働率は高い水準を維持。
- ・ 消費が落ち込んでいるためか、ラミナの調達はやや容易。

【見通し】

- ・ 見通しが立たず年内は厳しい状況という意見もある一方、公共・民間ともに受注は良好（前年比3割増見込み）で、高稼働率を引き続き維持していくという意見もある。

資料：林野庁木材産業課調べ
 調査対象：全国の集成材工場

5 チップ（全国及び関東地区）

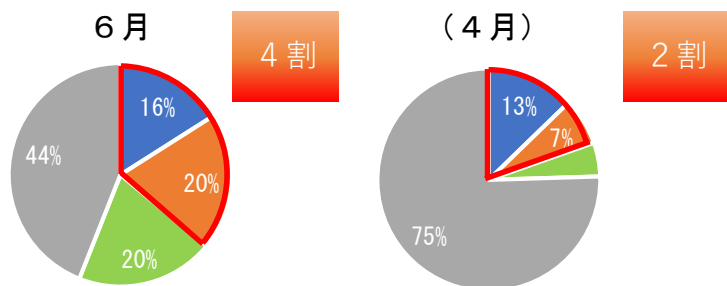
大手のチップ工場を対象に6月の状況について調査（回答数100）を実施（4月の回答数は102）。
 全国の状況としては、

- ・生産状況について、**減産**していると回答した事業者が**約4割**あり（4月比約2割増）、**減産割合も「20%以上」が増加**している。一方、2割の事業者が増産していると回答。
- ・**約1割**の工場が**原木の入荷制限を継続**（4月から微増）。

関東地区においては、**パルプ用チップの受注は前年比3割減**。燃料用チップ生産はやや不足気味となっている。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

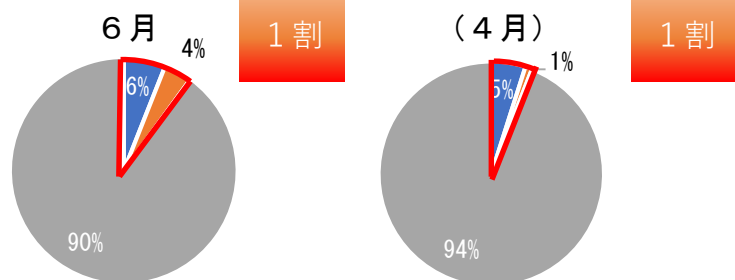
- ・製紙需要の減退により、パルプ用チップは針葉樹、広葉樹とも減産。
- ・燃料用チップの生産・販売は堅調。

【見通し】

- ・製紙は今後も厳しい減産が続く見込み。
- ・燃料用需要は継続。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・パルプ用原木の受入を制限している工場もある。
- ・燃料用原木は地域によってややひっ迫。
- ・合板用原木の一部がチップ用に利用されることもみられる。

【見通し】

- ・パルプ用原木は今後も受入制限を継続する見込み。
- ・木質バイオマス発電施設の増加により燃料用原木は地域によって、調達が一層厳しくなる可能性。

■ 8月時点の情報【関東地区】

【現状】

- ・パルプ用の受注は前年比3割減。製紙工場では入荷制限もされているが、燃料用は受注に変動なし。燃料用チップ用材はやや不足気味。

【見通し】

- ・製紙用の需要回復には時間がかかりそう。燃料用は積極的な供給が求められる。
- ・木質バイオマス発電施設の増加による需要増加に伴い、原木の調達が一層厳しい状況になる。

資料：林野庁木材産業課調べ

調査対象：全国のチップ工場（木材チップ生産量1万t/年以上）